



地球にはなぜクレーターのあとがないの

地球のまわりに空気がある

宇宙から地球に落ちてきた、小わく星などのかけらをいん石といいます。いん石は、ものすごい速さで地球につっこんできます。地球のまわりには空気があります。いん石が地上に落ちてくるまでの間に、この空気とこすれあって大きな熱を出し、明るい流星のように見えます。

いん石が地面に大きなあなをあける

燃えつきないで落ちてくる、いん石は、ものすごい速さで地上にぶつかり、地面に大きなあなをあけるときのがあります。この大きなあなをクレーターといいます。

最初に、いん石のしょうとつによりできた、クレーターだとわかったのは、アメリカのアリゾナ州にある、バリンジャーいん石孔(クレーター)で、このクレーターの調査研究をした科学者、バリンジャーの名がつけられています。その直径は、1280メートル、深さは180メートルにもなります。

地球には、海や川に大量の水があり、大気もあります。そのため、水のしん食作用や大気の風化作用により、クレーターが月のように残っていないのです。(監修・国司 真)

